

### 地域ぐるみで子どもを育てる「地域の寺子屋事業」 川崎市立小・中学校単位で、市民団体や NPO が運営する学びの場

活動団体名	認定NPO法人 かわさき創造プロジェクト
事業委託機関	川崎市教育委員会
活動地域	川崎市内の多摩区中之島小学校区
メンバー	15人（元教員、市主催の寺子屋先生養成講座修了者他）
主な活動	学習支援、体験学習、世代間交流を図る各種事業を展開
心掛けていること	・子どもたちの興味と関心を引き出し、学ぶことの楽しさ、面白さを実感できるプログラムの提供 ・やる気が出て達成感が味わえ、自主性・自発性が醸成される学び方・支援方法の工夫



大下 勝巳

（一社）神奈川健康生きがいづくり協議会所属AD、認定NPO法人かわさき創造プロジェクト理事・地域の寺子屋コーディネーター（2022年3月に退任）

#### 1. 地域の子どもたちに学習機会の提供と生活支援を

退職した先生方と市民ボランティアの方々にご指導をいただき、地域の小学生を対象に「寺子屋事業」を展開している。川崎市教育委員会の委託事業として2014年（平成26年）にスタートし8年目を迎えた。

事業の目的は次の3点である。

- ①子どもたちにさまざまな学習機会を提供することにより、学力向上や豊かな人間性の形成を図る
- ②地域ぐるみで児童・生徒の教育及び学習をサポートする仕組みを作ることにより地域の教育力向上を図る
- ③シニア世代の知識及び経験を活かして、さまざまな世代で学ぶ生涯学習の拠点をつくる

これらの目的を達成させるための具体策として、NPO 法人では「学習支援」と「体験学習・世代間交流」の2本柱で活動している。

#### 主な活動内容

学習支援	・学習の習慣化により、学力・学習意欲の向上を図るとともに家庭学習を支援する ・日々の学習の中で積み残した課題を解消する
体験学習 世代間交流	・体験学習を通じて、さまざまな地域の人々とかかわる機会を持ち、自分も地域の一員として社会を知る ・シニア世代、企業、大学など多様な社会資源の活用

#### 2. 事業受託の経緯

川崎市教育委員会が、平成26年度「地域の寺子屋事業」実施要項を発表。その事業目的の一つにあった「シニア世代の知識及び経験を活かす」と当 NPO 法人の活動目的「シニア世代に地域参加の機会と場を提供し、豊かなシニアライフの構築と市民生活の向上に寄与する」が合致すること。中でも NPO 法人会

員の中に教育関係 OB が在籍していたこともあり、シニア世代の社会参加の場づくりとしてもぴったりであることから応募したのが始まり。活動に際しては委託費をもとに運営している。

#### 3. 活動メンバーと「寺子屋」活動

「学習支援教室」で子どもたちの学習指導に当たるのは、元小学校の先生 OB と市教育委員会主催の「寺子屋先生養成講座」修了者、市民ボランティアの管さん。事業全体の企画運営を担うのは、寺子屋コーディネーター4名（男女各2人）。当日の受付、子どもたちの帰路安全確保等を担当するスタッフ3名（男性1人、女性2人）。「体験学習・世代間交流」では、コーディネーターとスタッフ全員が参加し、運営に当たっている。

## (1)「学習支援教室」— 学ぶことの面白さ・楽しさの体験を通じ自主性・自発性を醸成

NPO 法人が受け持っているのは川崎市多摩区中野島小学校区の子どもたちで、「学習支援教室」を年間22回実施。その内訳は、2～6年生が6月から翌年の3月まで。また1年生が9月から翌年の3月まで、毎週金曜日の放課後の1時間、「低学年（1・2年生）」と「高学年（3～6年生）」の2クラスを担当している。その内容は、最初の15～20分は個別学習時間としてそれぞれ学校で習ったことの復習や宿題、また寺子屋で用意したプリント問題など。後半は、異なった学年同士がともに学ぶ「共通学習（複式学級）」を、主に「算数」「国語」を中心に、時には「社会科」も交えておこなっている。

実施に当たりモットーとしているのは、「子どもたちの興味と関心を引き出し、自分でやってみたいという意欲を育てること」、また「学ぶことの面白さ楽しさを体験し、自ら勉強しようという意識を育てること」で、「面白そうだな！ やってみよう（関心をもち、やる気が出る）」⇒「できたあ！ やったあ！（達成感を味わう）」⇒「おもしろいな、またやりたい！（自主性・自発性）」の醸成に心がけている。

## (2) 体験学習・世代間交流 —

学校では得られない体験から地域の一員としての意識を持つ

「体験学習・世代間交流」活動は、通常の学習では体験できない「多様な人生経験や仕事での知識・技術を持つ地域の人々との多世代交流を通じて自分も地域の一員としての思いを持つ」ことを目的に、各分野の専門家や経験者を招き「ブラインドサッカー」や「車いすバスケット体験」、「手作り昔遊び工作」「手打ちうどん料理教室」「百人一首」等のプログラムを実施している。（＝地域の多様な社会資源を発掘し活用）

令和3年度 川崎市寺子屋推進フォーラム 展示ポスター ▲

## 4. 体験後のアンケートと課題及び改善点

### <子供たちの感想>

- ・家の人や先生以外の人と話が出来た
- ・勉強が好きになった
- ・他の学年やクラスの人と話ができた
- ・勉強のわからないところがわかるようになった
- ・学校や家庭で勉強できない事を教えてもらった

### <保護者からの感想・意見>

- ・少しずつだが自分で考えるようになった
- ・以前より人の話をよく聞くようになった
- ・寺子屋でチャレンジしたプリントを見せ、私が出来ないと自慢げに解説する様子が自信に満ちて頼もしい

参加者のアンケートを見るとおおむね評価をいただいているが、活動上の課題は以下の点が挙げられる。

- ①「共通学習（複式学級）」に相応しいオリジナルなテーマ・問題の拡充
- ②活動を支援する「コーディネーター」「スタッフ」の増員
- ③「寺子屋」実施地域の方の参加が少ないので、地元支援者を増やす
- ④「学習支援教室」の内容等について保護者との情報共有の質・量両面での拡充
- ⑤ホームページの作成等「寺子屋教室」の周知広報の充実

何より、参加者の感想や意見が活動の励みとなり、糧になっている。

（取材・原稿作成、編集部）